足利赤十字病院　Japanese Red Cross Ashikaga Hospital

地域に根差す、足利赤十字病院の広報誌

風流鯨

ーかぜながすくじらー

ご自由にお持ち下さい
Take Free

2019.4 Vol.25

- 副院長退任・就任挨拶
- 「地域がん診療連携拠点病院」に指定
- 低侵襲手術支援ロボット da Vinci(ダヴィンチ)を使用した肺癌手術の保険適応施設として認定
- 人間ドック健診施設機能評価(Ver.4.0)の認定を更新
- 私たちは忘れない 未来につなげるプロジェクト
- 大規模災害時対応訓練　●栃木県内初 オープン献血

TOPICS ●活動報告&お知らせ　●栄養課の窓　●放射線科の豆知識

長い間お世話になり ありがとうございました。

退任のご挨拶

副院長
浦部 忠久

スウェーデン留学を終えて、慶応整形外科教授室に帰朝報告に伺ったとき、矢部裕教授から「足利日赤に3年から5年行って来てください」と言われ整形外科部長として赴任してから24年2ヵ月がたちました。あっという間だったような、長かったような複雑な気持ちです。

副院長（5年）、医局長（10年）、理学診療科部長（現リハビリ科）、形成外科部長、薬剤部長、医療安全推進室長などいろいろな役職を経験させていただきました。また、日赤スポーツ大会では、自身が選手として参加した硬式テニス部東部ブロック優勝という栄冠も手に入れることができました。野球部全国日赤大会優勝の瞬間にもその場に立ち会うことができました。小松本院長の胴上げは忘れられない思い出です。仕事面においては、整形外科ではまず開放骨折の患者さんにすぐに対応できるように手術器材、緊急時体制を整えました。麻酔科の先生、手術室スタッフ、病棟スタッフに無理をお願いしました。休日や夜間に何度お世話になったことでしょう。リハビリ科では、回復期リハ病棟立ち上げ初期段階に関わることができ、現在のリハビリ科隆盛の礎を築くお手伝いが出来たのではないかと勝手に思っています。さらに、副院長職は皆様からの支えがあってはじめてできたことと感謝の気持ちで一杯です。特にJCI初回受診時、3年後更新時には、医療の質を高める取り組みに際して、医療情報課を軸として皆様とのいろいろな絆があり無事やってこられました。副院長就任時の挨拶にも書きましたが、組織は最終的には「人」です。各医療専門分野におけるプロとしての自覚を持ち、良好なコミュニケーションがとれる能力を備えている集団でなければ病院はなりたちません。今後も結束し、絆を大切にさらに良い病院となるよう祈っております。本当に長い間お世話になりありがとうございました。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

就任のご挨拶

副院長 高橋健一郎

この度、副院長を拝命いたしました高橋健一郎です。平成21年4月に当院に赴任して以来、手術室で麻酔業務に専従してまいりました。多くの診療科が揃っており、緊急手術の割合が高い当院での麻酔業務は、われわれ麻酔科医にとってはハードですがやりがいのあるものです。この10年間は光陰矢の如しでした。

外国人労働者の増加、消費税率アップ、働き方改革、診療報酬の伸び悩みなど、医療を取り巻く社会情勢は刻々と変化していきます。ある企業のトップは「安定は衰退の始まりである」と言っています。当院は病院機能評価、JCI、JMIP、がん診療連携拠点病院などあらゆる認定・認証をクリアし安定期に入ったとも感じられますが、名実ともに地域の基幹病院であり続けられるよう、環境の変化に柔軟に対応していかねばなりません。

私は副院長として、引き続き麻酔業務を中心に活力ある手術室を維持するとともに、横断的な業務にも取り組みその職責を果たしていく所存です。そのために多職種の職員のみなさん、そして患者さまの声を病院幹部に伝えるパイプ役になりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

副院長 平野 景太

本年4月1日付けで副院長を拝命した平野景太です。私は金太郎の里である相模の国の足柄に生まれ、東京で医学全般や腎臓内科学を修め、平成25年4月に足利へ赴任しました。「腎臓病を早期に発見し透析に至る患者さんを少しでも減らしたい」「残念ながら透析に至った場合、多様な生活形態を提供し、その方なりの社会復帰を目指したい」との思いで地域に尽くして参りました。その結果、足利赤十字病院の腎疾患診療実績は関東のトップクラスに入りました。以上の活動を通じて私は「腎臓病に限らずこの地域の医療自体を日本でも誇れる地域の1つにしたい」との思いに至りました。当院が「患者安全と医療の質の継続的な改善」をモットーとする国際的医療機能評価機構JCIの認証を更新する際や、多様な言語・価値観・生活観を有する外国人の受け入れ医療機関としての公的認証資格（JMIP）を取得する際には、プロジェクトチームのサブリーダーを務めました。年号も新しくなり、社会が医療に求めるニーズは日々変化します。しかしながら、当院の理念「患者の皆様がかかって良かった、職員の一人一人が勤めて良かったといえる病院」はいつの世でも通じる普遍的なものです。今後もこの理念を胸に刻み、地域医療の発展のために尽力して参ります。

副院長 室久 俊光

この度足利赤十字病院副院長を拝命致しました。私にとって身に余る重責ではありますが地域医療、病院に貢献できるよう精一杯の努力をする所存です。

私は平成31年1月1日に足利赤十字病院に内科部長として赴任し現在は主に消化器領域の内科診療を担当し、また消化器内視鏡指導医として若手内視鏡医の育成にも携わっています。

前任は獨協医科大学消化器内科であり准教授として主に肝臓病を専門に診療、研究、教育にあたって参りました。大学病院では肝疾患相談室の立ち上げ、充実を担当し、多職種参画を実践しその重要性を認識しました。また昨年10月には栃木県において日本消化器病学会関東支部市民公開講座を当番世話人として開催し市民の方々への健康教育、疾患啓発の必要性を強く認識しました。これらの経験を生かして足利赤十字病院がさらに地域で愛される病院となるよう、また職員の方々が生き生きと充実して業務に携われるよう努めて参ります。地域住民の方々、患者の皆様、そして病院職員の皆様にはどうか今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「地域がん診療連携拠点病院」に指定

指定書▶

平成31年4月1日付で厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院に指定されました。

がん診療連携拠点病院とは、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担う病院として、国が定める指定要件を踏まえて都道府県知事が推薦したものについて、厚生労働大臣が適当と認め、指定した病院です。当院はこれまでの取組みが評価され、都道府県内の各地域で中心的役割を果たす『地域がん診療連携拠点病院』（原則として2次医療圏で1施設）として今年度より指定されました。

今後も専門的ながん診療機能のさらなる充実を図り、地域のみなさまに質の高いがん診療が提供できるよう努めて参ります。

低侵襲手術支援ロボット da Vinci（ダヴィンチ）を使用した肺癌手術の保険適応施設として認定されました

平成31年4月より呼吸器外科で実施している以下の術式が、当院で保険診療として行える旨を厚生労働省関東信越厚生局から承認を得ることができました。この保険の施設基準を満たしたのは北関東（栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県）で足利赤十字病院が初めてとなります。現時点では、肺癌のロボット手術の保険適応施設として認定された病院は全国でも十数か所程度しかなく、栃木・群馬では当術式の唯一の施行施設となっております。

ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術
（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）

※肺がんが主な疾患になりますが、転移性肺腫瘍で葉切除が必要な際にもロボット手術を保険で行うことが可能です。手術適応に関しては、呼吸器外科にご相談ください。

人間ドック健診施設機能評価（Ver.4.0）の認定を更新

平成31年4月1日付で「人間ドック健診施設機能評価（Ver.4.0）」の認定を更新しました。平成26年8月に初回の認定（Ver.3.0）を受けてから初めての認定更新となります。人間ドック健診施設機能評価は、人間ドックを行う医療施設や健診施設を対象に第三者評価を行うことで、当該施設の継続的な質の改善活動を促進するための事業です。日本人間ドック学会の定める一定の基準をクリアした優良な施設が「機能評価認定施設」として認定されます。

2月7日に行われた審査では、受診者の皆さまが安心して健診を受けられるかに重点が置かれ、調査員が多数のデータや書類をチェックし、実際の受診者と同じ動線に沿って施設内を厳しく調査しました。基準となる評価項目は、「理念達成に向けた組織運営」、「受診者中心の良質な健診の実践」、「継続的な質改善の取り組み」に関する三つの領域96個と多岐に渡りましたが、当センターはこの基準を全てクリアし、認定の更新となりました。今後も、受診者の皆様が利用してよかったといえるような健診施設を目指し、健診の精度と質の更なる向上に努めてまいります。

▲審査の様子

▲認定書

私たちは忘れない 未来につなげるプロジェクトについて

3月11日（月）に、正面玄関ホール及び外来階段横で、「私たちは忘れない。未来につなげるプロジェクト」として過去の救護活動のパネル展示、防災・減災に関するリーフレットの配布、災害に関するDVDの放映を行いました。東日本大震災から8年が経過し、改めて興味深く説明を聞き入る方も多く見受けられました。今後も啓蒙活動を続けていきたいと思います。

大規模災害時対応訓練

2月16日（土）に、足利市西部地域を震源とする震度6強の直下型地震を想定し大規模災害時対応訓練を行いました。第1部では発災後の安全確認、災害対策本部の立ち上げから被災状況の確認、避難誘導と並行した災害時体制への切り替え、第2部では傷病者受入のための各エリアの設置、トリアージの実施による赤・黄・緑エリアへの振り分け、各エリアでの傷病者の受入等を行いました。当訓練は足利市医師会、安足健康福祉センター、足利市消防署の協力もあり、また傷病者役には地域住民約50人のご協力を頂き、実戦さながらの訓練を実施しました。今後も訓練を実施し、いつ発生するか分からない災害に備えていきます。

▲訓練の様子

栃木県内初 オープン献血

1月25日（金）に、栃木県赤十字血液センターにより、当院の講堂を利用した県内病院初のオープン献血を実施しました。毎年冬場の献血バスでは、受付時や移動において寒さが厳しく献血者は減少傾向にありました。講堂を利用したことで、受付時から暖かく、圧迫感等もない環境から、献血者も安心して献血することができました。結果、冬場としては65名と大勢の方を受付することができました。ご協力ありがとうございました。

▲オープン献血の様子

▲ペッパー君も来院

活動報告&お知らせ

Report & Information square

お知らせ 皆さまのお越しをお待ちしております
イベントスケジュール

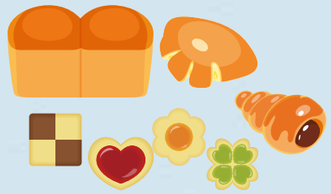
リボンズハウス

がん患者様の治療と生活を支援するため、情報やケア体験を提供する場所です。がんに関心をもたれている方、お気軽にお立ち寄りください。

日時 5/20(月)・6/3(月)・17(月)　午前10時～午後2時
場所 イベントルーム

ナイスハートバザール（出張販売）

障害者就労支援事業所で一つひとつ丁寧に作っているパンや焼き菓子・オリジナル製品を販売しています。



時間 午前10時～午後1時（売切れ次第終了）
場所 正面玄関入口広場

日付	販売商品（事業所）
4月25日（木）	●菓子パン・食パン（フロンティアおやま） ●梅干し・かぼちゃプリン・焼き菓子・野菜（やまゆり学園）
5月9日（木）	●コーヒー豆・シフォンケーキ・パウンドケーキ・焼菓子等（しあわせスイーツだんだん） ●焼菓子・エコポット・漬物・パン（こなかの森）
5月23日（木）	●菓子パン・食パン（フロンティアおやま） ●コーヒー豆・シフォンケーキ・パウンドケーキ・焼菓子等（はろーじょぶ）
6月13日（木）	●菓子パン・食パン（フロンティアおやま） ●シュークリーム・アップルパイ・クッキー・マフィン・マドレーヌ（愛光園一歩）
6月27日（木）	●野菜・木工製品・手芸・和紙製品・ジュース等（こころみ学園） ●コーヒー豆・シフォンケーキ・パウンドケーキ・焼菓子等（はろーじょぶ）

※事業所の都合により、販売内容が変更となる場合がございます。

お知らせ 音楽ボランティアコンサートのお知らせ
コンサート予定をお知らせいたします

◎ハートクロスフェスタコンサート
足利大学附属高等学校 吹奏楽部・足利女子高等学校 音楽部
日時 5月11日（土）　会場 講堂

◎ボランティアコンサート
フォルティシモ（コーラス）
日時 6月6日（木）午後2時～　会場 エントランスホール

お知らせ 第6回足利赤十字病院 病院祭 ハートクロスフェスタを開催します！

入場無料
お問合せ：足利赤十字病院
TEL：0284-21-0121
HP: http://www.ashikaga.jrc.or.jp/

今年もハートクロスフェスタを開催します。コンサートや、救急車・救護車両の展示や栄養相談コーナー、出店・炊き出しコーナーや、救護服やナース服姿での「ちびっこ写真撮影コーナー」も。ぜひご家族でお越しください！

日時 5月11日（土）　午前10時～午後3時
場所 足利赤十字病院 講堂・エントランスホール他

★ちびっ子写真撮影コーナー　★ハートクロスコンサート
★救急車・救護車両展示　★栄養相談・お薬相談
★認定看護師コーナー　★運動機能測定　★炊き出しコーナー

など普段知ることのできない足利赤十字病院を体感しよう!!

※ 出店・炊き出しコーナーはなくなり次第終了となります。

お知らせ 2019年ゴールデンウィーク（10連休）の診療体制について

新天皇即位により、2019年4月27日（土）～5月6日（月）まで10連休となりますが、当院は、4月30日（火）、5月2日（木）の2日間は開院いたします。（一部休診となる場合があります。）

日付	4月				5月					
	27日	28日	29日	30日	1日	2日	3日	4日	5日	6日
外来	休診			開院	休診	開院	休診			
救命センター	24時間対応									

今号の表紙　2019年度新入職員

健康レシピ紹介

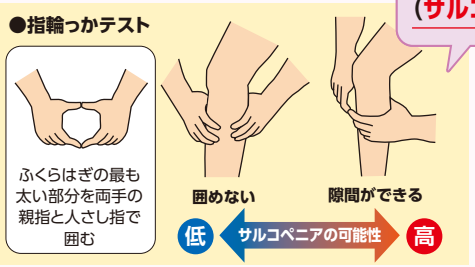
栄養課の窓

手すりを使わずに、階段昇れますか?
もしかしたら、筋肉が減少しているかも…

あなたは大丈夫?
簡単!筋肉減少チェック!!

隙間ができている人は
加齢に伴う筋肉量・筋力低下
(サルコペニア)の恐れあり

●指輪っかテスト



食生活や運動を工夫しましょう!!

〈食生活〉

たんぱく質

筋肉・内臓・髪や爪、皮膚などを作る栄養素です。
肉・魚・卵・大豆製品・乳製品に多く含まれます。
毎食どれか1品は欠かさず食べましょう!

〈運動〉

温かい季節になってきました!運動もサルコペニア予防の為には大切です!継続して行える事を見つけ、運動を習慣づけましょう!

料理が苦手・忙しいから
漬物とご飯でいいかな…

そんな あなたに!!

電子レンジで作る
簡単
たんぱく質UP
メニュー

調理時間
5分

ミルクリゾット

■栄養成分(1人分)
エネルギー:375kcal
たんぱく質:11g　塩分:1.9g

材料[1人分]
- ご飯……150g
- スライスチーズ……1枚
- 顆粒スープの素…小さじ1
- ブラックペッパー……少量
- 牛乳…80ml
- 醤油……適量
- パセリ…適量

~作り方~

1. ご飯の上にスライスチーズをのせる
2. その上に牛乳・顆粒スープの素を加える
3. ラップをかけ、電子レンジ(500W)で2分30秒加熱
4. ご飯をほぐし、仕上げに醤油とブラックペッパーで味を調え、お好みでパセリを加えて完成

管理栄養士 入江 光世

次号予告!!
サルコペニア対策:たんぱく質の他に重要な栄養素ビタミンDや詳しい運動について

放射線科の豆知識

Q X線写真(レントゲン)を撮るときに外す必要のあるものは?

A レントゲンは、X線を照射した範囲にあるものを物質の透過性によって白~黒の濃淡で表現しています。余計なものがあると診断の妨げとなってしまうため、撮影範囲内のネックレス、ブラジャー(ボディスーツ、スリップ)、腹巻き、ホッカイロ、磁気治療器具(エレキバン、コルセット等)、ボタン・ファスナーの付いた服、ストーンやスパンコールの付いた服等は、撮影の際に脱いで(外して)いただく必要があります。また、金具のない服であっても、模様やシワがレントゲンに写ることがありますので、厚手のセーターやトレーナー、パーカー、プリントのあるTシャツ等は脱いでいただきます。さらに、締め付けの強い下着は内臓の位置が通常と異なって見えてしまうことがあるため、下げていただくこともあります。受診の際には検査に適した脱ぎ着しやすい格好で来院されることをお勧めします。

当院では、レントゲン撮影前に撮影部位や着替えの説明を行いますので技師の指示に従ってください。更衣室には検査着をご用意していますので必要に応じてお使いください。下着の調整金具やポケットの中の小銭など患者さま自身が把握していなかったものによるレントゲンの再撮影が時折見受けられます。再撮影(無駄な被曝)を避けるため、事前に身に着けているものの確認をお願いいたします。また、除細動器など放射線を当ててはいけない装置もありますので、体内に埋め込んでいる装置等ある方は検査前に技師にお伝えください。不明な点がある場合は遠慮なくお尋ねください。

(診療放射線技師　前川 沙織)

足利赤十字病院
Japanese Red Cross Ashikaga Hospital
〒326−0843 栃木県足利市五十部町284−1
TEL: 0284−21−0121　FAX: 0284−22−0225　ホームページ http://www.ashikaga.jrc.or.jp/
広報誌「風流鯨」Vol.25／平成31年4月22日発行　編集・発行／足利赤十字病院広報委員会